記せるものにして、XV以下に於ては、四ヶ所に於て之を天可汗と稱せり、天可汗とは碑額に突厥文字にて記せるTängri Kaγan に相當し、既に死せる諸可汗を呼ぶには只可汗の文字を以てせるに對して、現に治世の可汗に對する尊稱として用ゐたるものなること疑無く、其の上に於ける空格の如きも、可汗なる文字の上には一個を存し、天可汗の上には二個を存せるが如きも亦之が爲なるべし、Schlegel 氏は天可汗とは唐の天子を稱せるものなりと曰へど、然も唐の天子はVIIに於るが如く皇帝と稱したれば、之と區別して書かれたる天可汗の語は必ず回鶻の可汗を稱したるものなること疑ふ可らず、既に Wassilieff 氏もXIIの天可汗を Du（合毗伽可汗）Himmels Fürst と譯し、又其の他の諸氏も Schlegel 氏を除きては皆此の義に解せり、此の如く天可汗なる語が回鶻に於る現に治世の可汗を稱したるものなりとすれば、此の可汗こそ碑題に見ゆる愛登里囉汨沒蜜施合毗伽可汗なること曰ふ迄も無く、從てXII 1—6の□合毗伽可汗なる文字は此の可汗の徽號の一部なること疑ふ可らず、果して然らば懷信可汗に近接した る時代に於て、碑題に見ゆる徽號を有せし可汗ありやと曰ふに、既に本論に見たるが如く、懷信可汗より俱錄毗伽可汗の一代を隔てゝ立ちたる保義可汗の徽號は冊府元龜封冊篇によれば全く之と同一なり、新唐書回鶻傳は之を愛登里羅汨密施合毗伽可汗と し、汨字の下に沒の一字を記さゞれども、此の如きは一見して新唐書の誤なるを知り得べく、汨密施（qutmiš）にては意を成さず、必ず沒（bul）字の脫したるものならざる可らず、されば碑文XI 75以下に於て、若し俱錄毗伽可汗の位を嗣ぎしことを記したりしものと推察するを許さば、碑文に見ゆる可汗の順位は、好く唐書冊府元龜等の記せる所と合致するものにして、碑文に天可汗と曰ひ、碑題に愛登里囉汨沒蜜施合毗伽可汗と曰ひ、而してXII 1—6に「□合毗伽可汗」と記さるゝものが保義可汗に當ること疑無し、而して碑の75以下